

“わたしのまち”

目黒区

散歩しながら再発見！

公園に秘められた目黒の歴史

住宅地の中に点在する目黒区の公園。

現在では、子どもから高齢者まで区民の憩いの場として親しまれていますが

公園となる以前、その土地は公園以外のさまざまな場として人々に利用されてきました。

まちを散策する中で、公園の昔の姿に思いをさせ、区の魅力を再発見しましょう。



住宅地に点在する憩いの公園

目黒区は、全体の約40・2パーセントが良好な住宅地とされる第一種低層住居専用地域です。区内には、公園や緑道、児童遊園などが150か所あります。

品川区にまたがる林試の森公園と世田谷区にまたがる駒沢オリンピック公園の2つの大きな都立公園のほか、目黒川の桜や緑道、公園等の緑が人々に安らぎとうるおいを与えています。

公園の今と昔の姿

区民の憩いの場として親しまれている公園ですが、その昔、屋敷があったり農産物の生産地だったりときまじまな場でした。



平成26年に「目黒区生物多様性地域戦略」を策定し、公園を核としたまちづくりを推進しています

散策の折には、そんな公園の歴史に思いをさせてみてはいかがでしょうか。

●富士山も見える見晴らしのよき西郷山公園

東急東横線の代官山駅から歩いて15分、住宅街の中にある西郷山公園は、台地の端の斜面を利用してつくられた公園で、園内には20メートルの落差の人工の滝やゆるやかな坂道の園路や展望台が設けられています。展望台からの眺めは素晴らしく、冬によく晴れた日には遠く富士山も望むことができます。また、高台の明るい芝生広場では、のびのびと遊ぶ子どもたちの姿が見られます。

この公園の名前の由来は、この土地

鯉のぼりが泳ぐ碑文谷公園は区内で最も古い公園のひとつ。ボートが楽しめる弁天池は広さ約0.8ヘクタールある



西郷山公園

所在地：目黒区青葉台2-10-28
 最寄駅：東急東横線「代官山駅」下車徒歩15分
 開園：昭和56年5月28日
 面積：10549.65平方メートル
 近隣のおすすめスポット：目黒天空庭園、目黒川散策

西郷従道(1843~1902年)は明治2年に欧州を視察後、兵制や警察制度の制定、殖産興業政策の推進に尽力した。兄隆盛の下野にもかかわらず新政府の要職につき、文部卿・陸軍卿・農商務卿・内務大臣・海軍大臣などを歴任した



芝生広場からの展望。眺めの良さを楽しみながらお弁当を広げる人も多い

が西郷隆盛の弟で明治期の政治家・軍人であった西郷従道の屋敷の北東部分にあたり、付近の人々から「西郷山」と呼ばれ親しまれていたことから名付けられました。

●和館から日本庭園を眺められる菅刈公園

西郷山公園のすぐ近くに、かつては西郷山公園から続く西郷従道の屋敷の一部だった菅刈公園があります。

もともとこの辺りには、江戸時代、「荒城の月」で知られる豊後(今の大

分県)の岡藩の屋敷がありました。2万坪に及ぶ敷地には樹木がうっそうと茂り、池には三田用水から水が引かれ滝のある大名庭園は、当時の地誌に江戸の名所として紹介されていました。

その後、征韓論を主張して破れ、下野した隆盛のために明治7年に従道が手に入れ、付近の地形を生かした広い庭園をつくり、洋館や書院造りの和館といった立派な建物を構えました。

回遊式の庭園は、池・滝・大芝生地など大改修が行われ、「東都一の名庭園」と言われました。明治22年には、明治天皇の行幸や皇后・皇太后の行啓があり、天皇は庭園での大相撲や薩摩踊りを、また皇后は当時従道が後援していた養蚕技術の改良成果の展示を観覧したと伝えられています。

邸内には、養蚕所のほか農園・果樹園もあり、機織りやトマトソースの製造・缶詰加工も行われていました。

従道の死後、二男従徳が昭和16年に渋谷に移転するまで本邸として使用していましたが、その後、同邸の所有は箱根鉄道・国鉄と移り、空襲で和館が焼失したり名木が枯れるなど往時の面影はほとんど失せてしまいました。わずかに残された洋館は、昭和38年、愛

菅刈公園

所在地：目黒区青葉台2-11-25
 最寄駅：東急東横線「中目黒駅」「代官山駅」下車徒歩15分
 開園：平成13年3月31日
 面積：20049.39平方メートル
 近隣のおすすめスポット：東山公園、東山貝塚公園



日本庭園に面して、展示室・和室・庭園展望室を備えた和館が設置されている

復元された優美な日本庭園。秋の紅葉も見事で、散策しながら西郷従道邸の当時の様子をうかがい知ることができる



知県犬山市の明治村に移され、保存されています。

平成9年に区は旧西郷従道邸庭園の遺構を調査し、在りし日の姿を一部復元した公園として整備しました。

園内には、芝生広場・子どもの遊び場・斜面の緑地を保全する区域を設けるとともに、復元された日本庭園に面して建てられた和館には、公園の成り立ちやかつての所有者、西郷従道に関する資料を見ることができ展示室、庭園を一望することができます。

すずめのお宿緑地公園

所在地：目黒区碑文谷3-11-22
 最寄駅：東急東横線「都立大学駅」下車徒歩10分
 開園：昭和56年4月1日
 面積：7493.72平方メートル
 近隣のおすすめスポット：サレジオ教会 碑文谷八幡宮

園内の古民家で行われる年中行事のお月見飾りの風景。9月・10月の十五夜又は十三夜に、縁側にスキの穂や里芋・栗・団子などを供える



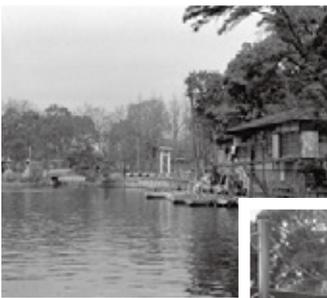
竹林の間を散策できる。碑文谷付近は昭和の初めまで区内でも有名な竹林だった

室、茶道・華道・句会などの利用に有料で貸し出している和室などがあります。

庭園を見ながら当時の様子に思いをはせ、人気の和室を利用してお茶会を開くなど、憩いのひとときを過ごすみてはいかがでしょうか。

●竹林と古民家のあるすずめのお宿緑地公園

目黒通り・環七通りから少し入った住宅街に、竹が生い茂るすずめのお宿緑地公園があります。



昭和32年頃の池の様子。昔は土地の字名をとって「三谷の池」と呼ばれ、現在よりももっと大きかったと言われている

碑文谷公園

所在地：目黒区碑文谷6-9-11
 最寄駅：東急東横線「学芸大学駅」下車徒歩6分
 開園：昭和8年11月15日 東京市開園
 面積：43533.81平方メートル
 近隣のおすすめスポット：めぐろ区民キャンパス、
 呑川柿の木坂支流緑道



こども動物広場で実施されているポニー教室では、馬にふれたり、乗ったり、お手入れ、ニンジンあげ等の体験ができる

昔は目黒には竹林があちこちにあり、この辺りでも筍の栽培が盛んに行われていました。今からおおよそ200年前、江戸時代に始まったとされる目黒の筍栽培は、大正中頃に最盛期となり、有数の竹林だったこの地では良質の筍が収穫されたと言われています。

目黒の筍は、目黒式と言われる地下茎を掘り起こし深く掘った溝に埋め直し、肥料を施す独特の栽培法で作られていたもので、目黒の土質に合っており、「太く、やわらかく、おいしい」

と評判でした。目黒不動前の料亭では、名物筍飯が提供され、正岡子規や多くの文人墨客が舌鼓を打ちました。

また昭和のはじめ頃、この竹林は付近一帯のすずめのねぐらになっていました。数千羽というすずめが朝どこへともなく飛び立ち、夕方には数百羽が一団となって帰り、空が薄暗くなるほどだったそうです。そのためこの場所は「すずめのお宿」と呼ばれるようになりました。

今でも公園内には竹林やシイ、ケヤキなどの大木が残り、いろいろな野鳥が見られます。都会にありながら清涼な雰囲気を感じられ、竹林を渡る風の音を楽しめます。

園内には子どもが遊べる中央広場や遊具コーナーがあります。また、北側の一角には江戸時代から村の年寄を務めた栗山家の主屋を移築・復元した古民家（区指定文化財）があり、保存・公開しています。ここでは、正月飾りや3月・5月の節句飾り、お月見、すず払いなど最近では家庭でもあまり見られなくなった年中行事を再現しており、子どもたちが七夕飾りを作ったり、読み聞かせや民話を聞く体験イベント等に参加したりしています。

●ポニーにもボートにも乗れる
 碑文谷公園

東急東横線の学芸大学駅近く、電車の中からも広がる池を目にすることが出来る碑文谷公園。真ん中にある弁天池は、その昔、この地域共有の水田灌漑用のため池で、村の人の「命の水」となっていました。現在はボート場があり、有料でボート遊びを楽しめます。太鼓橋でつながる小島には、昔から地域の人手で管理されてきた厳島神社があり、五穀豊穰、村内繁栄、子孫繁栄などのご利益がある弁天さまとして知られ、親しまれています。

小動物にふれあうことのできる貴重な場所です。中学生以下の児童が対象の施設ですが、大人にも親しまれています。年1回のイベント「ポニーまつり」では、通常のプログラム以外に親子乗馬や大人を対象にした乗馬、動物小物の販売・ゲームコーナー・バザー・模擬店などさまざまな催しが行われます。

魅力的な目黒区の公園

まだまだある!

駒場公園



旧前田侯爵邸洋館
 京王井の頭線の駒場東大前駅から徒歩8分、こんもりと木々におおわれた森と広場の公園、駒場公園は、旧加賀百万石（今の石川県）の当主・旧前田侯爵邸跡です。公園の中には、優雅な洋館と名石をあしらった庭園に面した和館があります。

化粧レンガやタイル張りの施されたおしゃれな洋館は、昭和4年に建てられました。また、昭和5年に建てられた書院造りの和館の1階広間は無料休憩所になっており、縁側から美しい日本庭園が望めます。流れのある池、芝や池の配置がみごとに調和した庭園を眺めながら、落ち着いた雰囲気を楽しむことができます。



旧前田侯爵邸和館

※和館は、平成28年3月31日（予定）まで耐震補強工事のため休館しています。

駒場野公園

駒場公園から線路をはさんで反対側には駒場野公園があります。ここはかつて人の背ほどもある笹が一面に生え、ところどころに松林がしげる広い原野で、駒場農学校の研究の場でした。明治14年にドイツ人ケルネル氏が農芸化学の教師として着任し、土壌や肥料の研究を行って大きな成果をあげました。

現在の公園は、ケルネル氏が研究を行ったケルネル田んぼや池・雑木林を残しつつ、テニスコートや体育館を備えた公園として多くの人に利用されています。にぎやかな渋谷駅から2駅とは思えないほどの自然の宝庫で、時には、カワセミやクワガタも観察できます。都会にありながら自然とふれあえる貴重な体験ができる公園です。

稲穂が育つケルネル田んぼ。ケルネル氏が土壌や肥料の研究を行った

